

令和6年度

事業報告書

I 法人事業報告書

II 施設事業報告書

社会福祉法人 青い鳥

社会福祉法人 青い鳥 理念

共に悩み、

共に感動し、

共に認めあえる

法人を目指します。

目 次

I 法人事業報告 1 ページ

- (1) 総括（1年の振り返り）
- (2) 法人役員（理事、監事）、評議員、顧問名簿
- (3) 理事会開催状況
- (4) 評議員会・臨時評議員会開催状況
- (5) 監事監査実施状況
- (6) 静岡市 指導監査等実施状況
- (7) 地域貢献事業等実施状況
- (8) 職員関連事項
- (9) 社会福祉充実残額について
- (10) その他

II 施設事業報告

1. 日本平学園（就労継続支援B型事業、生活介護事業） . . . 6 ページ

- (1) 総括（1年の振り返り）
- (2) 利用者の状況
- (3) 利用率
- (4) 工賃支払い状況
- (5) 委託作業収入実績
- (6) 行事、イベント状況
- (7) 実習生及び見学者受け入れ状況
- (8) 職員研修実施状況
- (9) 苦情申し立て状況
- (10) 会議開催状況
- (11) 広報誌「青い鳥」発行状況
- (12) その他

2. 日本平ホーム・日本平ハイツ(共同生活援助〔包括型〕事業)・14 ページ

- (1) 総括(1年の振り返り)
- (2) 利用者の状況
- (3) 利用実績
- (4) 職員会議実施状況
- (5) 利用者ミーティング実施状況
- (6) 避難訓練実施状況

3. 日本平ホーム短期入所事業所(短期入所事業) 17 ページ

- (1) 総括(1年の振り返り)
- (2) 利用実績
- (3) 避難訓練実施状況

事業報告の付属明細書 19 ページ

I 法人事業報告

(1) 総括（1年の振り返り）

1. 「職員の人材確保と職員教育の実施」について

令和6年度も職員の異動が何件か発生した。年度途中、年度末と時期を問わず、その都度、募集を行い人材確保を維持するよう努めた。また日本平ハイツの職員が1月末で産休に入る予定であった為、それも募集をしたが応募がなく、日本平学園から職員を調整して対応した。静岡市シルバー人材センターに相談し、次年度に向けて人材確保に努めた。職員教育については、虐待案件が発生したことを受けて、虐待防止の勉強会を実施したり、各自の行動を振り返る虐待防止セルフチェックを毎月実施し、二度と繰り返さないよう、虐待防止意識の向上に努めた。

2. 「新規利用者の確保」について

特別支援学校の職場実習を受入れや特別支援学校の保護者向けの当事業所見学会を企画し、新規利用者の確保に努めた。結果的には令和7年度に1名の利用者を受入れる事となった。昨今放課後デイサービスを運営している法人、事業所の囲い込みが多い中、当事業所を選んでいただけるよう、この課題に対しては継続して行い、更に拡大していく必要を感じた。

3. 「地域貢献事業の推進及び実施」について

生活困窮者の利用料免除は継続し、保護者の負担軽減を図った。また地域貢献活動として、東豊田中央こども園園児とのボッチャ交流会を企画、実施した。パラリンピック競技でもあるボッチャだが、一般にはなかなか触れる機会が少なく、園児たちの反応も心配であった。しかし始めてみれば大盛り上がるの交流会となり、「まだやりたい」の声に今後への励ましを頂いた。また近隣大学、短期大学等の学生の実習に際しても積極的に受け入れを行った他、大学での福祉講演の依頼にも応え、地域の福祉教育に参加した。

4. 「理事会、評議員会の定期開催」について

年間を通して理事会3回、評議員会3回を全て対面形式で実施出来た。議案については全て可決となり、令和6年度の理事会、評議員会は滞りなく完遂した。

(2) 法人役員（理事、監事）、評議員、顧問名簿(令和6年3月31日現在)

役 職	定数(名)	現員(名)	氏 名
理 事	6～8	6	瀬戸脇 正勝(理事長) 磯部 智明(副理事長) 川島 貴美江 芝 知美 真鍋 正誠 八木 克典
評議員	7～9	7	鈴木 奈保美 末永 淳子 古川 宗孝 齊藤 敏春 田中 みどり 佐藤 利男 落合 功
監 事	2	2	白鳥 幸男 岡田 貞夫
顧 問	若干名	1	山田 孝史

(3) 理事会開催状況

開催日	審議内容・報告事項	結果
第1回 令和6年5月27日	第1号議案 非常勤職員就業規則の改正について	可決
	第2号議案 令和5年度 各種事業実績(案)について	可決
	第3号議案 令和5年度 各種会計決算(案)について	可決
	第4号議案 定時評議員会の開催日時等について	可決
第2回 令和6年10月25日	第1号議案 経理規程の改正について	可決
	第2号議案 令和6年度 各種会計補正予算(案)について	可決
	第3号議案 第1回臨時評議員会の開催日時等について	可決
第3回 令和7年3月11日	第1号議案 一時金の支給について	可決
	第2号議案 令和6年度 第2次各種補正予算(案)について	可決
	第3号議案 令和7年度 各種事業計画(案)について	可決
	第4号議案 令和7年度 各種当初予算(案)について	可決
	第5号議案 第2回臨時評議員会の開催日時等について	可決

(4) 評議員会・臨時評議員会開催状況

開催日	審議内容・報告内容	結果
第1回 定時評議員会 令和6年6月12日	第1号議案 令和5年度 各種会計決算(案)について	可決
第1回 臨時評議員会 令和6年11月8日	第1号議案 令和6年度 各種会計補正予算(案)について	可決
第2回 臨時評議員会	第1号議案 令和6年度 第2次各種補正予算(案)について	可決

令和7年3月27日	第2号議案 令和7年度 各種事業計画(案)について 第3号議案 令和7年度 各種当初予算(案)について	可決 可決
-----------	--	----------

(5) 監事監査実施状況

開催日	監査事項	意 見	指摘事項
第1回 令和6年5月15日 (決算監査)	理事の業務執行状況	適正である	無し
	法人の財産管理状況	適正である	無し
	法人及び施設の業務執行状況	適正である	無し
	法人及び施設の会計状況	適正である	無し
	その他の状況	適正である	無し
第2回 令和6年10月17日 (定期監査)	理事の業務執行状況	適正である	無し
	法人の財産管理状況	適正である	無し
	法人及び施設の業務執行状況	適正である	無し
	法人及び施設の会計状況	適正である	無し
	その他の状況	適正である	無し

※監査項目内容は、監査チェックマニュアルによる。

(6) 静岡市 指導監査等実施状況

① 法人監査

実 施 日 令和6年8月8日(木) 午前10時～午後1時
場 所 日本平学園内会議室
対 象 社会福祉法人 青い鳥
実 施 結 果 文書指摘 なし
口頭指摘・助言 なし

② 指定生活介護事業所に係る改善指導について（虐待行為に対する指導）

静岡市発信日 令和6年7月25日
改善指導内容 (抜粋) 今回認定された虐待案件について、早急に虐待防止委員会を開催し、議事録を改善措置の具体的計画とともに提出すること。
改善対応結果 ・虐待防止委員会 令和6年8月24日(土) 実施
・「改善計画書」「虐待防止委員会議事録」を9月17日付で静岡市に送付した。《青い鳥第21号》

(7) 地域貢献事業等実施状況

① 生活困窮者支援事業

- ・日本平学園を利用している生活困窮者の利用料免除（対象者1名）

② 地域清掃活動

- ・東豊田中央こども園 園庭土手の樹木伐採、草刈り

令和6年10月7日（月）～11日（金）

③ 地域交流活動

- ・東豊田中央こども園 年中園児23名 日本平学園にてボッチャ交流会

令和7年3月14日（金）10：30～11：00

④ 地域大学にて職員による講演

- ・静岡県立大学短期大学部にて、企画課長による学生向けの福祉講演

令和6年6月24日（月）16：20～17：50

(8) 職員関連事項

① 職員配置

(令和7年3月31日現在)

区 分	日本平学園	日本平ホーム	日本平ハイツ
正 職 員	5名	1名	
契約職員	7名		
パ ー ト	4名	3名	1名
運 転 手	2名		
計	18名	4名	1名

② 職員の異動状況

(令和7年3月31日現在)

区 分	採 用	退 職
正 職 員	1名	1名
契約職員	5名	4名
パ ー ト	4名	1名
運 転 手	1名	2名
計	11名	8名

③ 職員健康診断実施状況(1回/年)

- ・山田医院にて 6名 (4/13, 27, 5/11)
- ・静岡市静岡医師会健診センターにて 12名 (6/1, 15, 29, 7/6, 20)

④ 職員面談実施

実 施 日 令和6年8月1日(木)、2日(金)
場 所 日本平学園内会議室
面 談 者 理事長、施設長
参 加 者 日本平学園 12名、日本平ホーム 1名、日本平ハイツ 1名

(9) 社会福祉充実残額について

残額なし

(10) その他

① 静岡労働基準監督署より是正勧告書受諾(5月21日付)

- 違反事項 ・労働契約の締結に際し、法定で定められた事項を厚生労働省令で定める方法により明示していないこと。(労基法第15条第1項)
- ・年次有給休暇の日数が10労働日以上である労働者に対し、その日数のうち5日について、法定の除外事由がないにもかかわらず、基準日から1年以内の期間に労働者ごとにその時季を定めることにより与えていないこと。(労基法第39条第7項)

是正対応 ・上記改善完了報告(5月28日送付)

② 第1回 懲罰委員会実施

実 施 日 令和6年6月25日(火) 16:00~16:45
場 所 日本平学園内会議室
出 席 者 理事長、副理事長、施設長、理事3名
議 題 職員による利用者への虐待案件について

③ 寄附者 堀向 文憲 様

Ⅱ 施設事業報告

1. 日本平学園(就労継続支援B型事業、生活介護事業)

(1) 総括(1年の振り返り)

1. 「利用者の健康維持及び安全確保」について

事業所として集団生活である特性上、コロナ禍で学んだ感染症対策は継続して取り組んだ。急な体調不良や何か異変が観られた場合には、すぐに保護者へ連絡を入れ、速やかに受診するといった対応をとった。利用者の高齢化に伴い、早期のがん発見に至ったケースもあり、日頃からの健康観察が改めて重要であると感じた。引き続き健康面、安全面での配慮は継続していく。

2. 「作業工賃の維持」について

前年度、就労継続支援B型事業の平均工賃が35,500円となり、今年度は前年度分の消費税の支払い対象年度である事を踏まえて、同程度の平均工賃を維持することを目標に据えて取り組んだ。結果的には令和6年度の就労継続支援B型事業の平均工賃は37,818円となり前年度を上回る事が出来た。半面、生活介護事業の利用者の工賃は前年度より下げざるを得ない状況であったので、申し訳なく思う。これまで作業工賃向上に全力を注いできたが、今後については取引企業の作業量減少の事もあり、今改めて原点に立ち返り、利用者支援の充実に注力していく方針を保護者に伝え、新たな気持ちで取り組んでいく。

3. 「利用者支援の質の向上」について

就労継続支援B型事業や生活介護事業の各事業において、日々利用者支援に際して様々な課題が挙がってきた。保護者との話し合いの機会を設けたり、各班での話し合いを実施し、良い方向へ進むように対応して来た。利用者主体の支援を行う為、支援の基本である「職員倫理綱領及び行動規範」を再度読み込むように伝え、毎月セルフチェックを実施して支援の質の向上を図った。

4. 「職員のチームワークの向上、各職員の自己研鑽の推進」について

法人として職員1人1人に対しての個別面談を実施し、職員が同じ方向を向いて業務にあたるよう助言し、職員個別の課題を確認した上で自己研鑽していくよう促しを行った。また外部研修の参加計画を立て、自己研鑽をサポートした。

5. 「6S (※) の推進」について

整理整頓は利用者の安全確保や事故防止に繋がり、また施設内を綺麗に保っていくことで、利用者、職員のみならず、見学者などに清潔感のあるクリーンな印象を与える大変重要な取り組みである。事業所内は勿論、園内や送迎車両に至るまで、6Sの意識を持って取り組んできた。

※6Sとは…職場環境の改善や維持のために用いられるスローガンです。

「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「習慣」「躰」の頭文字のSが6つで6Sです。

(2) 利用者の状況(令和6年3月31日現在)

多機能型 定員40名(生活介護24名、就労継続支援B型16名)

現員41名(生活介護25名、就労継続支援B型16名)

4月 特別支援学校より男性2名入園

5月 就労継続支援B型の男性1名他事業所へ移行にて退園

9月 生活介護の女性1名施設入所のため退園

2月 生活介護の女性1名他事業所へ移行にて退園

① 障害支援区分

(単位：名)

区 分	1	2	3	4	5	6	計
就労B型		1	4	9	2		16
生活介護				6	15	4	25
計		1	4	15	17	4	41

※区分の数字が大きくなるほど、手厚い支援が必要です。

② 年齢別在所者数

(単位：名)

区分	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計	平均
男性	2	9	8	4	5		28	35.7歳
女性			3	1	7	2	13	46.7歳
計	2	9	11	5	12	2	41	39.2歳

③ 療育手帳区分 (単位：名)

区分	A	B	計
男性	24	4	28
女性	8	5	13
計	32	9	41

④ 身体障害状況 (単位：名)

	視覚	言語	上肢	下肢	運動	呼吸器	計
男性	1		1		1	1	4
女性	1	1	2		1		5
計	2	1	3		2	1	9

※合計は重複している人数。

⑤ てんかんの状況

男性	10 名
女性	1 名
計	11 名

⑥ 自閉症（自閉傾向）の状況

男性	9 名
女性	7 名
計	16 名

(3) 利用率

(利用率は定員に対してのものです。延利用者数／(定員×開所日数))

生活介護	定員	現員	延利用者数	開所日数	利用率
4 月	24 名	27 名	529 名	22 日	100%
5 月			525 名	23 日	95.1%
6 月			522 名	22 日	98.8%
7 月			521 名	23 日	94.3%
8 月			510 名	23 日	92.3%
9 月			490 名	22 日	92.8%
10 月		26 名	510 名	23 日	92.3%
11 月			487 名	22 日	92.2%
12 月			519 名	23 日	94.0%
1 月			471 名	23 日	85.3%
2 月			443 名	20 日	92.2%
3 月		25 名	489 名	23 日	88.5%
計			6,016 名	269 日	平均 93.2%

就労B型	定員	現員	延利用者数	開所日数	利用率		
4月	16名	17名	352名	22日	100%		
5月			368名	23日	100%		
6月		16名	340名	22日	96.5%		
7月			361名	23日	98.1%		
8月			334名	23日	90.7%		
9月			330名	22日	93.7%		
10月			354名	23日	96.1%		
11月			331名	22日	94.1%		
12月			349名	23日	94.8%		
1月			328名	23日	89.1%		
2月			306名	20日	95.6%		
3月			337名	23日	91.5%		
計			4,090名	269日	平均 95.0%		

(4) 工賃支払い状況

(単位：円)

	就労B型			生活介護(作業班)		
	最高額	月平均	前年度比	最高額	月平均	前年度比
4月	41,000	34,118	+4,118	10,000	7,054	-2,346
5月	41,000	34,465	+4,465	10,000	6,569	-3,223
6月	41,000	35,313	+5,313	10,000	7,077	-2,785
7月	41,000	35,313	+5,313	10,000	7,015	-2,762
8月	41,000	34,175	+4,175	10,000	6,846	-2,546
9月	41,000	34,463	+4,463	10,000	6,977	-1,515
10月	41,000	35,150	+5,150	10,000	7,023	-2,802
11月	41,000	34,631	+4,631	10,000	7,077	-2,740
12月	41,000	34,663	+4,631	10,000	6,946	-2,662
1月	41,000	33,700	+3,700	10,000	6,800	-2,700
2月	41,000	34,656	+5,750	10,000	7,077	-1,938
3月	85,000	49,813	-47,281	10,000	6,915	-1,918

※令和 6 年度 就労継続支援 B 型事業 平均工賃 37,818 円

前年度(令和 5 年度)実績	35,500 円	前年度比 +2,318 円
前々年度(令和 4 年度)実績	40,200 円	前々年度比 -2,382 円

(5) 委託作業収入実績(令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月)

1	静岡県保険医協会：新聞折り、封筒入れ	2,163,537 円
2	(株)十字屋紙器：プラモデル袋詰め	8,872,285 円
3	静岡中部合成(株)：ヘッドライトゴム軽作業	542,236 円
4	(株)大須賀製作所：ネジの袋詰め	429,634 円
5	(株)故紙センタートヨタ：トイレットペーパー販売	144,990 円
6	静岡県社会就労センター協議会：セルフ茶販売	46,920 円
7	〃：警察局備蓄品	68,198 円
8	海上保安庁清水海上保安部：灯台草刈り	281,820 円
9	ホンダカーズ静岡(株)：故紙回収	79,200 円
10	日本ハム(株)ギフト販売	23,303 円
11	防災備蓄品調達	190,080 円
12	チラシ配り（県議会議員パンフレット）	24,500 円
13	(株)大富工業：自動車部品の組み立て	9,664 円
14	(株)半田工業所：ネジの袋詰め	3,460 円
合 計		12,879,827 円
前年度(令和 5 年度)実績	11,617,723 円	前年度比 +1,262,104 円
前々年度(令和 4 年度)実績	11,982,736 円	前々年度比 +897,091 円

(6) 行事、イベント状況

	行 事 内 容
4 月	令和 6 年度入園式
6 月	嘱託医山田医師による利用者健康診断 いちご狩り
9 月	歯科検診
10 月	インフルエンザ予防接種(希望者)

11 月	親子遠足
12 月	クリスマス会
3 月	静岡済生会総合病院による利用者健康診断 地域交流会

その他

- ・ 音楽療法(希望者のみ)、血圧測定は毎月実施
- ・ 運動療養は、土曜日に実施(希望者のみ)

(7) 実習生及び見学者受け入れ状況

① 特別支援学校等実習生

静大附属	静岡北	清水	静岡中央	その他※	計
なし	4 名	1 名	なし	1 名	6 名

※その他は他事業所利用者 1 名

② 大学・短大等実習生

大学・短大等	中学校 (体験学習)	ボランティア	計
4 名	なし	3 名※	7 名

※ボランティアはサマーショートボランティアに参加 (高校生)

③ 見学者

支援学校関係	施設関係	その他	計
11 名	2 名	17 名	30 名

※その他は東豊田中学校生徒 11 名、社会福祉人材センター職員 1 名、シルバー人材センター職員 3 名、会員 2 名

④ 職場体験実習 なし

(8) 職員研修実施状況

日にち	主 催	研修名	参加職員
8 月 29 日	全国社会福祉法人 経営者協会	令和 6 年度 全国社会福祉法人 経営者大会 (神奈川大会)	施設長

9月30日	静岡県社会福祉協議会	施設経営法人・社会福祉協議会合同研修会～法人間連携による福祉の課題解決の事例から～	企画課長 事務員
11月8日	静岡県社会就労センター	SELP って何？	支援員 2 名
令和 7 年 1 月 28 日	静岡県国際介護人材サポートセンター	外国人介護職員受入準備センター @オンライン	企画課長
1 月 29 日	静岡市障害者自立支援協議会	障害者虐待防止研修会	日本平ホーム 世話人 1 名
1 月 31 日	関東社会就労センター	新卒職員採用のために私たちが取り組むべきこと～求職者が求める求人とは	企画課長

(9) 苦情申し立て状況

No.	日にち	申出人	内 容
1	4 月 3 日	保護者 (母親)	朝、送迎車到着時間に送迎車が来ない。送迎車が予定の時間に来ない理由は何か知りたい、との申し出。送迎車到着時間の変更について 4 月 1 日朝に各運転手より各保護者へ伝えるはずであったが、該当利用者は 4 月 1 日、2 日と欠席であったため伝え忘れていた。担当運転手及び企画課長より謝罪と事情説明を行い、ご納得いただけた。
2	7 月 25 日	保護者 (母親)	16 時頃、自宅前にて送迎車より降車したが、短期入所を利用したバッグを持っていなかった事を気付いた時には送迎車は行ってしまった。バッグの所在を確認してほしいとの申し出。担当運転手と連絡を取り、バッグが車内にある事を確認した為、再度利用者宅に向かい、バッグを渡し運転手より謝罪を行う。送迎車乗車の際には荷物を確認し、利用者が持たない場合は職員（運転手）が渡すよう支援員に周知した。

3	8月5日	保護者 (母親)	日本平学園利用料が口座引き落としされなかった為、所定の金額を連絡帳に入れ登園させた。帰宅後、連絡帳を見たが、利用料を受領したか否かの記載がなく、その旨を記載してほしいとの申し出。利用料を受け取ったが、受け取った旨を連絡帳に記載しなかったミスを保護者に謝罪し、今後は必ず「受け取りました」と記すよう気を付ける旨伝え、ご納得いただいた。
4	令和7年 3月6日	保護者 (母親)	本日の健康診断では採血をキャンセルしたはずだが、採血の跡と絆創膏があるとの申し出。企画課長より電話にて謝罪、その後施設長より保護者に謝罪し、改善する旨を伝え、ご納得していただいた。

(10) 会議開催状況

- ・職員、支援員会議 (月1回)
(4/24, 5/22, 7/3, 8/16, 9/26, 10/28, 12/25, 1/29, 2/26, 3/26)
- ・責任者会議 不定期 (4/11, 6/15, 7/18, 10/31, 12/9)
- ・課長会議 毎週明け(月曜日実施)
- ・虐待防止委員会(年2回) (8/24, 3/31)

(11) 広報誌「青い鳥」発行状況

- 1回目… 4月29日 566部発行
- 2回目…11月26日 556部発行

(12) その他

特になし

2. 日本平ホーム・日本平ハイツ（共同生活援助〔包括型〕事業）

（1）総括（1年の振り返り）

1. 「利用者の健康維持、安全確保」について

グループホーム内において健康面、特に感染症関連は重要事項である為、引き続き、これ迄どおりの感染拡大防止対策（手洗い、消毒、食事の時間差摂取、衝立の使用、リビングでの密状態を避ける、各居室で過ごす等）を続け、利用者の健康維持に配慮した。利用者が不調の場合は、すぐに専門医の受診や、ご家庭に協力を依頼して利用者の健康維持、安全確保に努めた。また利用者の高齢化もあり、入浴介助時に異変を察した世話人からの報告により、早期がん発見に繋がったケースもあった。

2. 「利用者の生活の質の向上」について

利用者自身が日本平ホーム（日本平ハイツ）で、楽しく快適に過ごす事が出来るよう、室内の細かな改善から居室の変更に至るまで、個々と集団生活の両方にメリットがあるように、検討、実施してきた。また引き続き、少しでも喜んでいただけるよう、利用者ミーティングにて食べたいメニューの聞き取りをしてメニューに取り入れたり、お楽しみメニューなどで更に食事を楽しめるように実施した。

3. 「職員の育成」について

今の社会福祉事業の動向や、虐待防止に関することなど、職員会議等で説明し、それらを日々の利用者支援に活かすよう伝えた。また利用者個別のケースについて検証し、対応や対策を考えて実施していくよう話し合い、助言なども行い、専門職としての自己研鑽を促し、職員の育成に繋げた。

4. 「運営の安定」について

日本平ホーム、日本平ハイツと日々様々な出来事が起こっているが、その都度1つ1つ対策や対応を考えて実施してきた。9月に日本平ホームの利用者が入所施設へ移行したが、すぐに次の入居者を決めて話をし、11月から入居の運びとなった。日本平ホームと日本平ハイツ、また日本平学園と連携して運営の安定に努めた。

(2) 利用者の状況(令和6年3月31日現在)

定員 12 名 (日本平ホーム 7 名、日本平ハイツ 5 名) 現員 12 名

① 年齢別在所要者数

(単位：名)

区分	30～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61 歳以上	計	平均
男性	3	1	2		6	42.3 歳
女性	1	1	2	2	6	53.2 歳
計	4	2	4	2	12	47.8 歳

② 施設在所要年数

(単位：名)

区分	1 年未満	1～10 年	10 年以上	計	平均
男性		4	2	6	7 年 3 月
女性		4	2	6	7 年 11 月
計		8	4	12	7 年 7 月

(3) 利用実績

※利用率は定員に対してのものです。延利用者数 / (定員 × 支援日数)

月	支援日数 / 開所日数	延利用者数	利用率
4 月	22 / 30 日	259 名	98.1%
5 月	23 / 31 日	274 名	99.2%
6 月	22 / 30 日	259 名	98.1%
7 月	23 / 31 日	272 名	98.5%
8 月	23 / 31 日	264 名	95.6%
9 月	22 / 30 日	248 名	93.9%
10 月	23 / 31 日	237 名	85.8%
11 月	22 / 30 日	246 名	93.1%
12 月	23 / 31 日	267 名	96.7%
1 月	23 / 31 日	257 名	93.1%
2 月	20 / 28 日	236 名	98.3%
3 月	23 / 31 日	269 名	97.4%
計	269 / 365 日	3,088 名	平均 95.6%

※支援日数とは、職員が支援を実施した日数のこと。

※開所日数は、職員の支援がなく利用者のみで生活した日数も含む。

(4) 職員会議実施状況

1回／月実施

(5) 利用者ミーティング実施状況

1回／月 実施

(6) 避難訓練実施状況

不定期実施

- ・日本平ホーム・・・6/26, 10/23 (通報訓練含む) , 1/15, 3/25
- ・日本平ハイツ・・・12/11 (通報訓練含む)

3. 日本平ホーム短期入所事業所（短期入所事業）

（1）総括（1年の振り返り）

1. 「利用者の健康維持、安全確保」について

グループホームの利用者同様、集団生活の場である為、引き続き感染拡大防止対策（検温、手洗い、消毒等）を継続し、滞在中の利用者の表情、食欲、状態等を観察しながら異変がないかを常に確認して健康維持、安全確保に努めた。また日本平学園での日中活動の様子などの情報共有を行い、包括的な支援を心掛けた。

2. 「ご家族の負担軽減」について

短期入所利用に際して、持参する荷物（シーツ、タオル等）の準備が、実は保護者にとって負担となっている事をアンケートで把握することが出来た。そこでシーツ、タオル類はグループホームの物を使用していただいたり、洗濯も有料にて対応するなどの体制を作り、保護者の負担軽減、短期入所利用の活性化を図った。

3. 「利用稼働率の維持、向上」について

4月のみ100%の利用率となったが、年間平均利用率は80.2%という結果であった。前年度が85.7%だったので、利用率向上は叶わず逆に下がってしまうという結果となった。日本平学園の利用者の中で、未だ短期入所を利用していない方もおり、声掛けは実施したが、本人が嫌がる、今は利用を希望しない等の理由で掘り起こしは難しかった。夜間の体制が宿直であり、外部の重度の方を受入れる事が難しい現状があるので、今後は夜間体制も夜勤等を検討し、人材確保を整えた上で、利用率向上に繋がるよう対応していく。

(2) 利用実績 (定員 2 名)

(単位：名)

月	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	延利用者数	開所回数	利用率
4			5	6	16	9	36	18	100%
5			4	5	12	8	29	19	76.3%
6			5	10	11	4	30	17	88.2%
7			5	9	14	6	34	19	89.5%
8			6	7	10	7	30	18	83.3%
9			5	9	12	5	31	18	86.1%
10			4	9	11	6	30	19	78.9%
11			4	7	11	5	27	17	79.4%
12			3	7	13	7	30	19	78.9%
1			5	3	14	4	26	18	72.2%
2			3	2	14	4	23	17	67.6%
3			3	2	13	4	22	18	61.1%
計			52	76	151	69	348	217	平均 80.2%

※利用率は定員に対してのものです。(延利用者数/(定員×開所回数))

(3) 避難訓練実施状況

日本平ホームと合同で実施 4 回／年 実施

事業報告の付属明細書

1. 該当なし